

令和2年度 福島市産官学連携プラットフォーム年間事業計画表（変更版）

◆基本的な考え方

- ・下記の予定については、7月20日時点の新型コロナウイルス感染症の影響に基づき作成したものであり、今後の状況により変更する可能性がある。
- ・新型コロナウイルス感染症の収束の状況が予測できないことから、不特定多数が集まるイベントについては下半期以降に繰り下げる。
- ・一方、調査活動など、クラスター発生の原因ににくい取組については、会員機関およびステークホルダーの業務の再開・繁忙の状況を考慮し、最低限の遅滞となるよう事業推進を図る。
- ・補助金の申請の都合から、9月末日までにある程度の実績を作る必要があることから、下記計画から前倒しで実施できる見通しのものについては前倒しで実施する。

課題【 】と取組番号(①～④)	達成目標	担当プロジェクト	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	日程変更の方針	
【1】福島市内高等教育機関の学生数の減少								
当初	①高校生を対象に福島市内高等教育機関の合同大学研究セミナーを開催	・合同大学研究セミナー等への中学・高校生参加者数50人以上 ・年1回セミナーの開催	高等教育機関連携PT	大学研究セミナーを開催 5/8		学生と協働企画 次年度のセミナーを 学生と共同企画を行う	不特定多数が集う企画であることから、新型コロナウイルス感染症の収束の様子により再度変更を行う場合がある。	
変更	〃	・合同大学研究セミナー等への中学・高校生参加者数30人以上 ・年1回セミナーの開催	〃		大学研究セミナー(大学フェス)を開催(日程未定)	学生と協働企画 次年度のセミナー(大学フェス)を学生と共同企画を行う		
当初	②進学率アップのための市内小学校・中学校との連携に取組む	・合同大学研究セミナー等への中学・高校生参加者数50人以上 ・大学見学会の開催、中学校との連携	高等教育機関連携PT	中学校との連携のためのパイロット事業=聖母中「交流授業」を支援	高校生による市内大学見学会の実施	聖母中生職場体験への支援、産業界、自治体等	不特定多数が集う企画であることから、新型コロナウイルス感染症の収束の様子により再度変更を行う場合がある。また、通常授業がこれまでできていない状況を鑑みて、今年度は中学生に対する支援を最小限とする。	
変更	〃	・合同大学研究セミナー等への中学・高校生参加者数20人以上 ・大学見学会の開催、中学校との連携	〃		高校生による市内大学見学会の実施	聖母中生職場体験への支援、産業界、自治体等		
当初	③市内の高等教育機関の魅力アップへ取組む	・SDGs講演会開催 ・各PTの取組に掲げる	高等教育機関連携PT	講演会又は研修会開催	検討中	検討中	講演会や研修会の場合、参加者が比較的コントロールし易い性質があるため、最低限の延期とする。	
変更	〃	・SDGs講演会開催 ・各PTの取組に掲げる	〃		※イベントの実施可能性を検討	講演会又は研修会開催		
当初	④合同授業開講へ取組む	・合同授業の開講準備 ・シラバス作成	高等教育機関連携PT	データサイエンス系科目の検討	他機関と講師派遣の調整	次年度共同シラバス作成	【変更なし】初期の作業が対面で行う必要性の低い内容であることから、当初の予定どおり進める。	
変更	〃	・合同授業の開講準備 ・シラバス作成	〃	データサイエンス系科目の検討 遠隔授業による単位互換の可能性の模索	他機関と講師派遣の調整	次年度共同シラバス作成		
【2】福島市内高等教育機関同士が連携した事業の拡充								
当初	①福島市内高等教育機関合同FD・SD研修会の開催	・毎年1回開催 ・毎年、参加者20人以上	高等教育機関連携PT		合同FD・SD研修会を開催する		参加者が比較的コントロールし易い性質があるため、当初予定の時期に行う。なお、内容については先述のSDGsに関する研修会とのすり合わせを視野に入れる。	
変更	〃	・毎年1回開催 ・毎年、参加者20人以上	〃		合同FD・SD研修会を開催する			
当初	②在学生アンケート調査と【3】②卒業生ヒアリングの共同IRを実施	・共同IRの実施 ・分析結果の共有	高等教育機関連携PT	私学3校アンケート実施	私学3校調査結果を合同で分析を行う	分析結果の共有	【3】②地域に就職した卒業生ヒアリングに協力	
変更	〃	・共同IRの実施 ・分析結果の共有	〃	私学3校アンケート実施	私学3校調査結果を合同で分析を行う	分析結果の共有	【3】②地域に就職した卒業生ヒアリングに協力	
【3】福島市における地方創生の中心的役割を担う人財像の明確化(産業界が求める人財像と大学等が育成する人財像とのマッチング)								
当初	①産官学による福島で必要とされる人財像を明確にするための共同研究と共同授業の開発と評価	・打合せの場の開設 ・回数10回以上	人財育成及び地域活性化PT	人財像の明確化を図る	企業経営者と教育機関との意見交換会	企業採用担当者との意見交換会	地域に就職した卒業生のヒアリング	産業界の新型コロナウイルス感染症の影響が予測できないため、下半期に集中して行うようスケジュールを圧縮する。
変更	〃	・打合せの場の開設 ・回数5回以上	〃		人財像の明確化を図る	企業経営者と教育機関との意見交換会 企業採用担当者との意見交換会	地域に就職した卒業生のヒアリング	
当初	②中小企業との連携による、働く労働者を対象としたキャリアアッププログラムを共同開発し、講座の開催	1講座開講とPDCサイクルの確立 受講者数 毎年20人以上 1講座開講とPDCサイクルの確立 受講者数 毎年20人以上	人財育成及び地域活性化PT	同友会/市役所と議論する場設置に向け検討	会議の開催	福島で働く若者に求めるスキル「目標」として明示	「目標」達成を阻害する要因を特定する	産業界の新型コロナウイルス感染症の影響が予測できないため、下半期に集中して行うようスケジュールを圧縮する。
変更	〃	1講座開講とPDCサイクルの確立 受講者数 毎年20人以上	〃		同友会/市役所と議論する場設置に向け検討 会議の開催	福島で働く若者に求めるスキル「目標」として明示	「目標」達成を阻害する要因を特定する	

【4】福島市内の中小企業における大卒者採用という雇用ニーズの創出								
当初	①中小企業における大卒者採用への雇用マインド変革に関する講座の共同開発	・講座の開催 ・受講者数 毎年20人以上	人財育成及び地域活性化PT	取組【3】①と②の成果がでてから講座企画	取組【3】①と②の成果がでてから講座企画	取組【3】①と②の成果がでてから講座企画	取組【3】①と②の成果がでてから講座企画	当初より取組【3】①と②の成果により実施する予定だったため大きな変更は行わない。ただし、数値目標については下方修正を行う。
変更	〃	・講座の開催 ・受講者数 毎年10人以上	〃		取組【3】①と②の成果がでてから講座企画	取組【3】①と②の成果がでてから講座企画	取組【3】①と②の成果がでてから講座企画	
当初	②福島市内の中小企業への就職促進に取り組む	・企業説明会開催 ・企業20社以上 ・学生等80名以上	高等教育機関連携PT	説明会開催 時期未定	Webによる合同説明会の検討	若者就職支援事業「就職」セミナー開催 10月		新型コロナウイルス感染症の影響で地元企業の採用枠が小さくなるが見込まれる反面、学生の就職難も見込まれるため、数値目標を引き下げつつ実施する。
変更	〃	・企業説明会開催 ・企業20社程度 ・学生等80名以上	〃			説明会開催 10月中旬		

【5】人生100年時代の学び直しのニーズへの対応と活躍の場の確保								
当初	①産学官連携による「FUKUSHIMAing」な人財を育成するための講座開催	・生涯学習の集い開催 ・年間受講者数 毎年20人以上	人生100年時代学び直しPT			集いの準備	・生涯学習の集いⅡ 2月・Ⅲ3月の2回開催	【変更なし】参加者が比較的コントロールし易い性質があるため、当初予定の時期に行う。
変更	〃	・生涯学習の集い開催 ・年間受講者数 毎年20人以上	〃			集いの準備	・生涯学習の集いⅡ 2月・Ⅲ3月の2回開催	
当初	②産学官連携による「FUKUSHIMAing」な人財が交流する場「仮称OMOSHIRO工房」の設置	・工房の企画会議開催 ・年間利用者 毎年50人以上	人生100年時代学び直しPT	「仮称OMOSHIRO工房」設置に向けた調査開始	工房の企画	工房の企画	ヤングカレッジの検討	新型コロナウイルス感染症の影響で、計画を圧縮して実施する。
変更	〃	・工房の企画会議開催 ・年間利用者 毎年50人以上	〃		「仮称OMOSHIRO工房」設置に向けた調査開始	工房の企画	ヤングカレッジの検討	
	③アフターコロナ社会を見据えた、効果的な遠隔授業の方法や内容の開発	・プロジェクトチーム内での検討作業の開始 ・新しい形式の講座を年間5件実施	人生100年時代学び直しPT	検討に特化したチームの編成	新しいスタイルの授業の骨格の検討	新しいスタイルの授業の実施	ソフトの配信、蓄積に係る検討	—

【6】保育士不足解消の要因である保育士の早期離職に対するキャリア教育と支援の在り方の検討								
当初	①福島市・市内保育園と市内保育士養成校との連携による中高生に向けた取組による保育士養成施設の入学者数増に取り組む	・市内保育園への就職率アップ ・市内養成施設入学者数の定員充足	保育士キャリア形成PT	取組【1】①の取組との連携による企画を検討	市内保育士養成校による中高生向けのイベント企画	イベント開催		新型コロナウイルス感染症の影響で、計画を後ろ倒しにして実施する。
変更	〃	・市内保育園への就職率アップ ・市内養成施設入学者数の定員充足	〃		取組【1】①の取組との連携による企画を検討	市内保育士養成校による中高生向けのイベント企画	イベント開催	
当初	②定年保育士活用のための再就職推進へ取り組む	・待機児童ゼロ ・プログラムの開発	保育士キャリア形成PT	福島市保育施設団体との調査に係る調整	民間保育所における定年退職した保育士の再就職調査を実施する			新型コロナウイルス感染症の影響で、計画を後ろ倒しにして実施する。
変更	〃	・待機児童ゼロ ・プログラムの開発	〃		福島市保育施設団体との調査に係る調整	民間保育所における定年退職した保育士の再就職調査を実施する		

【7】福島市負担金による事業 ※新規								
	①企業と学生の協働による社会課題解決事業 ・本市が抱える社会課題(例:アフターコロナ・ウィズコロナへの対応等)をテーマに課題解決へ ・成果を市長へのプレゼンやSNS等で発信 ※参加方法は、対面及びオンライン(Zoom等)を併用		高等教育機関連携PT		人財育成及び地域活性化PTと調整しながら、内容の検討 課題抽出とチームビルディング	課題解決に向けた行動	プレゼンと発信	—
	②企業向けの大学PR動画を作成		〃		人財育成及び地域活性化PTと調整しながら、内容の検討	取材・制作	公開	—
	③就職セミナー ・地元企業の経営者と学生を対象にした就職セミナーを実施		〃		人財育成及び地域活性化PTと調整しながら、内容の検討	実施		—
	④高等教育機関へのオンラインシステム導入に対する支援 ・オンラインシステム導入に対する支援を行うことで、高等教育機関のICT環境高度化を図る ・オンラインシステムを活用した「企業と学生の協働による社会課題解決事業」や「就職セミナー」の実施も想定	・ICT環境の充実により学習環境や就職活動のための環境を整え、地元定着を促す	〃	調査	調査結果に基づいた支援の実施			—
	⑤企業・学生向けアンケート ・新常态(ニューノーマル)における企業の採用意向・マインド把握を目的に企業向けアンケートを実施 ・商工会議所等経由で委託企業を選定し、調査・分析を委託する方針		〃		人財育成及び地域活性化PTと調整しながら、アンケートの設定・実施方法等の検討 委託企業の選定			—
	⑥生活困窮学生の支援を行う	・福島市の会計年度任用職員として学生20名を雇用	〃	状況調査 雇用開始	雇用継続	成果分析		—